

## 富良野市における調査結果の概要

国語

算数・数学

理科

質問紙

平成30年9月 富良野市学力向上推進プロジェクト

平成30年度全国学力・学習状況調査の富良野市における調査結果を公表いたします。本市では、「学びの大地」に根ざした富良野に育つ3本の木（「知育の木」「情意の木」「健康の木」）の、より質の高い調和を目指しており、今回公表する学力調査結果は、その一部と捉えています。したがって、この調査結果は児童生徒の現時点での一面であり、今後の取組の資料に資するものと捉えています。今回の調査結果を今後の本市の教育施策や学校の取組に活かして、本市教育を一層充実させてまいりたいと考えております。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況及び意識調査の結果をお知らせすることにより、富良野市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育環境づくりを考えていただく機会としたいとも考えております。

児童生徒の学力向上を含め、「学びの大地」に根ざした富良野に育つ3本の木の、より質の高い調和を実現するためには、学校・家庭・地域の連携が必要不可欠です。今回、教科の学習状況と質問紙による意識調査（家庭や地域での学習や生活状況の様子）を併せて公表することで、その連携体制をより強化してまいりたいと考えております。

なお、この学力調査の結果は、児童生徒が身に付けるべき学力の一部分であり、この結果によって児童生徒の全てを評価するものではなく、子どもの成長に資するための資料であることから、序列化や競争につながらないよう、ご理解をお願いいたします。

### 調査の概要

#### ◆調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し教育施策の成果と課題を検証し改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### ◆調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年

#### ◆調査の内容

##### ○教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ・主として「知識」に関する問題（国語A、算数A、数学A、理科）
- ・主として「活用」に関する問題（国語B、算数B、数学B、理科）

##### ○生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に関する調査
- ・学校に関する調査

## 教科に関する調査結果の概要について

### ◆教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

#### 【小学校】

国語 A・B 及び理科は、全国平均正答率と同等（全国平均正答率とのポイント差が3ポイント以内）でしたが、算数 A 及び B は、全国平均正答率を下回りました。

#### 【中学校】

全ての教科において、全国平均正答率を上回りました。

本市では、学校教育中期計画の「自立と共生の未来を拓く心豊かでたくましい人を育む」という基本理念のもと、教育の原点である知育・徳育・体育の調和のとれた児童生徒の着実な育成を基本に据え、「全ては子どもたちのために」を合言葉に、児童生徒の無限の可能性を伸ばす教育の充実に努めてきました。

また、児童生徒が未来を拓き、変化の激しい時代をたくましく生き抜く「生きる力」を地域全体で育むために、学びの大地に大きく育つ三本の木としての『富良野市 ZERO 運動』を推進してきました。その成果は、様々な分野で児童生徒の成長の姿として発現され、それにふさわしい成果や高い評価を各方面から受けてきたところです。

本年度の学力・学習状況調査においては、小学校では国語 A・B と理科の3教科で全国平均正答率と同等であり、算数の2教科では全国平均正答率を下回る結果となりましたが、領域別に見ると全国平均正答率の85～90%の達成率になっています。また、中学校では5教科の全てで全国平均正答率を上回る結果となりました。これは、各中学校における授業改善が着実に進んでいると捉えることができます。今後は、達成率の低い領域を中心に、各学校において「わかる授業」への授業改善及び教育課程の見直しに全力を挙げて取り組み、家庭・地域と連携して学力向上に努めていきます。

## 各教科の領域別の状況

### 小学校国語

全国を100とした場合の全道及び本市の状況を数値で示しています。

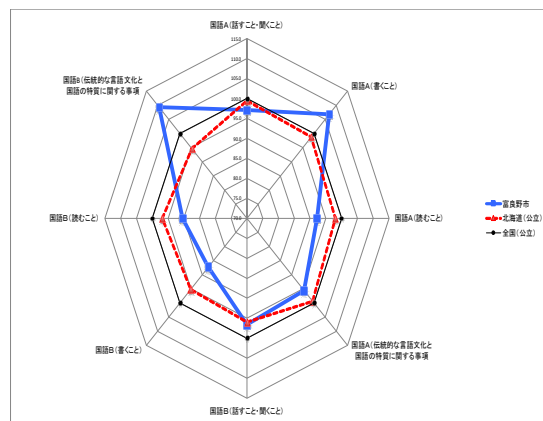
（数値は、それぞれの平均正答率÷全国の平均正答率×100で算出）

#### 富良野市小学校国語 A（主として知識）

- ・国語 A の領域別の問題では、「書くこと」の領域で全国平均正答率を上回っています。

#### 富良野市小学校国語 B（主として活用）

- ・国語 B の領域別の問題では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国平均を上回り、「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均正答率と同等になっています。



**【小学校国語の課題】**

A、Bともに「読む力」の育成が課題なので、学校での日常授業や家庭での音読（声を出して読むこと）を意図的に取り入れる等の改善が、学力向上に向けての課題であると考えられます。

「書く力」はAでは全国平均正答率を上回っていますが、Bでは下回っているので、作文指導等を通じて、自分の考えを表現する力の育成が課題であると考えられます。

**小学校算数**

全国を100とした場合の全道及び本市の状況を数値で示しています。

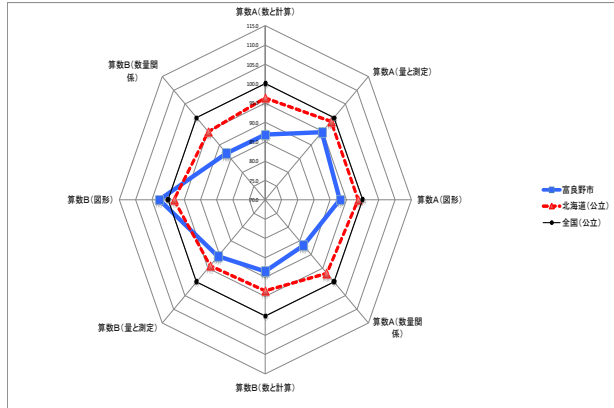
（数値は、それぞれの平均正答率÷全国平均正答率×100で算出）

**富良野市小学校算数 A（主として知識）**

- ・算数 A の領域別の問題では、全ての領域で全国平均正答率を下回っています。

**富良野市小学校算数 B（主として活用）**

- ・算数 B の領域別の問題では、「図形」の領域で全国平均正答率を上回っています。



**【小学校算数の課題】**

A、Bともに全国平均を下回っている領域での日常授業における重点的な「繰り返し学習」の取組や「宿題」「家庭学習」等を通じて、学習内容の着実な定着を目指した学校と家庭が連携した取組が課題であると考えられます。

**小学校理科**

全国を100とした場合の全道及び本市の状況を数値で示しています。

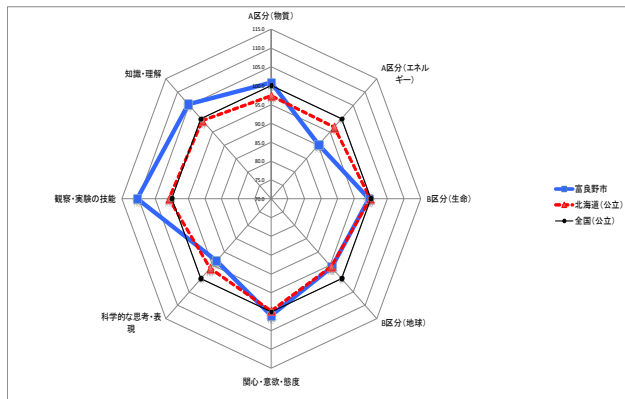
（数値は、それぞれの平均正答率÷全国平均正答率×100で算出）

**富良野市小学校理科（主に学習領域）**

- ・4区分のうち、「物質」の分野で全国平均正答率を上回り、「生命」の分野で全国平均と同等になっています。

**富良野市小学校理科（主に理解度）**

- ・4つの指標のうち、「知識・理解」と「観察・実験の技能」が全国平均正答率を上回り、「関心・意欲・態度」が全国平均正答率と同等となっています。



**【小学校理科の課題】**

A区分の「エネルギー」に関する指導の工夫と、学校での授業において「科学的な思考・表現」する力の育成場面を意図的に取り入れて指導することが課題であると考えられます。

## 中学校国語

全国を100とした場合の全道及び本市の状況を数値で示しています。

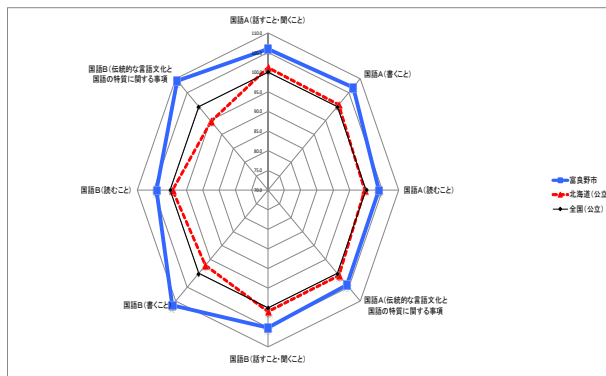
(数値は、それぞれの平均正答率÷全国の平均正答率×100で算出)

### 富良野市中学校国語 A (主として知識)

- ・全ての領域で全国平均正答率を上回っています。

### 富良野市中学校国語 B (主として活用)

- ・全ての領域で全国平均正答率を上回っています。



#### 【中学校国語の課題】

国語科における指導方法が効果を上げているので、この指導を継続して行うことと、全教職員で共有して今後の指導に活かすことが課題であると考えられます。  
また、「家庭での課題」等を活用した学習内容の着実な定着を目指した家庭と連携した教育環境の整備の取組が課題であると考えられます。

## 中学校数学

全国を100とした場合の全道及び本市の状況を数値で示しています。

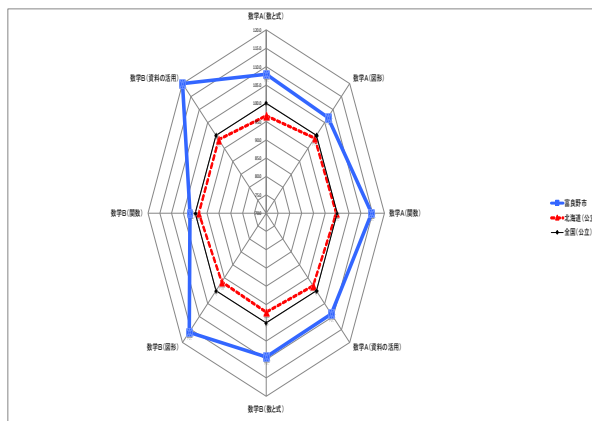
(数値は、それぞれの平均正答率÷全国の平均正答率×100で算出)

### 富良野市中学校数学 A (主として知識)

- ・全ての領域で全国平均正答率を上回っています。

### 富良野市中学校数学 B (主として活用)

- ・全ての領域で全国平均正答率を上回っています。



#### 【中学校数学の課題】

数学科における指導方法が効果を上げているので、これまでの指導を継続して行うことと、全教職員で共有して今後の指導に活かすことが課題であると考えられます。  
また、「家庭での課題」等を活用した学習内容の着実な定着を目指した家庭と連携した教育環境の整備の取組が課題であると考えられます。

## 中学校理科

全国を100とした場合の全道及び本市の状況を数値で示しています。

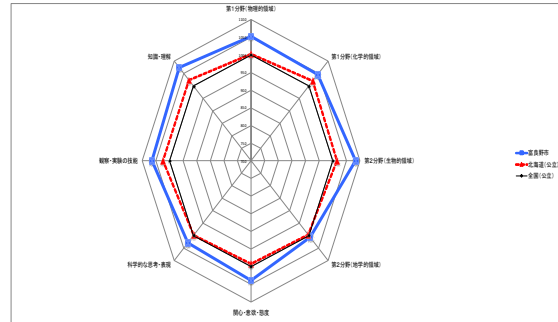
(数値は、それぞれの平均正答率÷全国平均正答率×100で算出)

### 富良野市中学校理科（主に学習分野）

- ・全ての分野で全国平均正答率を上回っています。

### 富良野市中学校理科（主に理解度）

- ・全ての指標で全国平均正答率を上回っています。



### 【中学校理科の課題】

理科における指導方法が効果を上げているので、この指導を継続して行うことと、全教職員で共有して今後の指導に活かすことが課題であると考えられます。

また、「家庭での課題」等を活用した学習内容の着実な定着を目指した家庭と連携した教育環境の整備の取組が課題であると考えられます。

### ◆小学校第6学年時（平成27年度）調査結果との比較

現中学3年生が小学6年生時（3年前）の正答率と現時点での全国正答率の差を比較すると、小学6年生の時点では、全ての教科で全国正答率を上回っていました。今回の調査でも国語B以外の4教科で伸びが見られることと、5教科全ての教科で全国正答率を上回っていることから、授業改善等による確実な学力の向上が見られるといえます。

この成果の背景には、生徒一人一人の頑張りはもちろんのこと、中学校における教科担任制による専門的な授業の積み上げによるところが大きいと考えられます。さらには、富良野市の全小中学校で取り組んでいる年間計画に位置付けた「チャレンジテスト」の実施や定期テスト等の効果的な活用、校内研修を通じた日常授業の改善、「まとめの時間」を設定した教育課程（教育計画）の工夫、稼業日及び長期休業を活用した「学習サポート」活動、家庭との連携による学習習慣や生活習慣に向けた取組が成果を上げていると考えられます。

#### ◆調査結果（まとめ）

本年度の学力・学習状況調査をまとめると、本市は小学校6年では全国平均正答率を上回らなかった教科があったものの、領域別では全国平均正答率以上か同等の結果が見られ、中学3年では全ての教科で全国平均正答率を上回り、富良野市の学力向上の取組は確かな成果を上げているといえます。

その要因として、全ての小中学校で組織的に授業改善を進めていること、小中連携の取組の充実、富良野市キャリア教育の推進、小規模校における教育活動の充実、教職員の加配、特別支援教育支援員の配置、長期休業中及び稼業日での放課後の学習サポートの実施、ICT機器（電子黒板・実物投影機・タブレット・デジタル教科書等）を活用した授業の充実が挙げられます。また、学校支援ボランティアによる読み聞かせ、ブックトラック事業等の読書活動の推進、イングリッシュキャンプ、スクールバスの乗車時を活用した英語活動等の英語教育の推進が挙げられます。今後も一人一人の学力向上に向けて、学校・家庭・地域との連携を深め本市の教育活動を更に充実させてまいります。

#### ※ 今後の授業改善の取組

- 学校全体で学力向上に向けた組織的な取組を推進するため、各学校の実情に合わせ「学力向上推進委員会」を機能させ、学力向上を図るための「わかる授業」の改善を主眼に据えた指導の充実を図っていきます。
- 「わかる授業」を目指して「課題設定」「まとめ」「振り返り」を学習過程（授業の進め方）に意図的・計画的に位置付け、授業改善に努めます。
- 自分の考えを書いたり発表する場面を意図的・計画的に学習過程（授業の進め方）に積極的に取り入れ、授業改善に努めます。
- 学習の指導計画を工夫して「反復学習」「繰り返し学習」を積極的に取り入れ、学習内容の確実な定着に努めます。
- 各教科ごとに付けたい力を明確にした教育課程（教育計画）の点検と見直しを行い、授業改善につなげます。
- 学校での学習効果を高め、理解を確実なものにするため、家庭と連携して家庭での「宿題」「課題」「家庭学習」の取組を計画的に行います。

この調査結果を踏まえ、本市の学力向上に向けた取組を、『第3次富良野市学校教育中期計画（平成30年度～平成32年度）』及び『富良野市 ZERO 運動』を基軸として充実した教育活動が展開できるよう推進していきます。

#### 『第3次富良野市学校教育中期計画（平成30年度～平成32年度）』

現在の子どもたちが大人になって活躍する21世紀は、人工知能の進展に伴う急速な変化が想定される情報化社会、少子高齢化が進む社会になると予想されています。

平成25年度から平成29年度の第2次学校教育中期計画は「自立と共生の未来を拓く心豊かでたくましい人を育む」ことを理念に掲げ策定された計画です。

そこで富良野市では本年度から、これまでの成果と課題を踏まえた上で第2次富良野市学校教育中期計画の理念を継承し、変化の激しい社会をたくましく生き抜き、自らの未来や社会を拓くための子どもたちの「生きる力」をオール富良野で育むための第3次富良野市学校教育中期計画（平成30年度～平成32年度）を新たに策定したところです。

#### 『富良野市 ZERO 運動』

富良野市 ZERO 運動は、子どもたちの「生きる力」をオール富良野で育む第3次富良野市学校教育中期計画に示された富良野市教育の基本理念を実現するための根幹にかかわる運動（教育計画及び教育活動）のことです。

ZERO 運動の ZERO は、「主体性や自主・自律」「原点や輪・和」「（子どもの）成長する姿やたくましく前進する姿」をあらわす言葉です。この言葉には、富良野市の子どもたちが「学びの大地」で大きく根を張り、「知育の木」「情意の木」「健康の木」の三本の木に豊かな枝葉を繁らせる姿に成長させるという本市の願いが込められています。

そのため、各小中学校・教職員・家庭・地域には「地域ぐるみの教育環境づくり」の充実に向け、教育環境の原点を見つめ直し、教育活動の輪（和）を広げることで富良野市教育の基本理念を実現することが期待されています。

## 児童・生徒質問紙調査結果の概要について

□ 60項目余りの児童質問紙での項目のうち、学習習慣・生活習慣・学力の定着に向けて相関関係またはそれに近い関係があると思われる7項目を抜粋して示しています。

□ 相関関係とは、因果関係ほどの直接的な関係性はないが、「勉強時間が長い児童生徒ほど正答率が高くなる傾向にある」ような関係のことをいいます。

(項目1) 「自分には、よいところがあると思いますか。」

回 答		当てはまる	どちらかとい		当てはまらない
			えば当てはまる	えば当てはまらない	
児童生徒 教科 正答率 (%)					
	小学 6 年生	国 語 A	71.4	67.7	58.8
国 語 B		52.2	52.3	45.6	31.3
算 数 A		59.0	60.2	41.9	44.6
算 数 B		46.5	48.7	38.5	32.5
中学 3 年生	理 科	59.3	60.7	49.7	45.3
	国 語 A	81.8	75.0	84.3	79.0
	国 語 B	65.7	59.6	69.7	61.5
	数 学 A	76.3	66.8	71.8	76.8
生 理 科	数 学 B	56.7	47.1	53.4	57.1
	理 科	74.1	63.6	71.8	74.6

○ 小学生では、「自分には、よいところがある」と答えた児童ほど正答率が高いという相関関係が国語 A で見られ、他の4教科においても相関関係に近い傾向が見られることから、児童一人一人に自尊心や自分に自信をもたせることが学力向上の重要な要素となることがわかります。中学生では、小学生ほどの相関関係が見られないことから、生徒の発達段階に応じて生徒一人一人の成長を見極めた思いや考えを受け止めるような学校や家庭での支援が重要な要素になると考えられます。

(項目2) 「朝食を毎朝食べていますか。」

回 答		食べている	どちらかとい		全く食べていない
			えば食べている	あまり食べていない	
児童生徒 教科 正答率 (%)					
	小学 6 年生	国 語 A	69.6	61.7	43.8
国 語 B		52.0	47.2	53.1	37.5
算 数 A		58.2	55.8	67.9	41.4
算 数 B		46.9	44.5	60.0	31.7
中学 3 年生	理 科	58.6	60.6	46.9	57.3
	国 語 A	81.6	74.5	74.4	68.0
	国 語 B	66.9	57.0	57.8	45.8
	数 学 A	74.6	67.6	64.7	58.0
生 理 科	数 学 B	55.4	46.3	47.9	32.1
	理 科	73.4	59.1	58.9	56.0

○ 小学生では、「毎日朝食を食べている」と答えた児童ほど正答率が高いという明確な相関関係は見られませんが、中学生では、数学 B 以外の4教科で「毎日朝食を食べている」と答えた生徒ほど正答率が高いことから「朝ごはんを食べる生活習慣」は学力の定着の重要な要素であり、相関関係の見られない小学生のうちから「朝ごはんを食べる規則正しい生活習慣」を定着させておくことが極めて重要になると考えられます。

(項目3)「家で、自分で計画を立てて勉強していますか。」

回答		児童生徒 教科 正答率 (%)			
		している	どちらかとい えばしている	あまりしてい ない	全くしていない
小学 6 年生	国語 A	69.8	69.6	62.4	63.9
	国語 B	50.8	51.8	49.0	62.5
	算数 A	57.0	57.4	58.9	59.5
	算数 B	48.4	45.6	43.5	50.0
	理科	61.8	56.7	56.1	56.3
中学 3 年生	国語 A	85.0	80.0	76.8	77.5
	国語 B	71.5	64.6	58.8	66.7
	数学 A	78.0	72.1	70.6	67.6
	数学 B	59.3	51.6	51.4	48.0
	理科	74.3	70.1	67.7	66.4

○小中学生を通じて、「自分で計画を立てて勉強するほど正答率が高い」という相関関係の見えるのは、中学生の数学 A 及び B の2教科のみですが、家で計画的に勉強している場合と全くしていない場合とでは数学 B において11ポイントほどの差となっていることから、「自分で計画を立てて勉強すること」は、学力の定着への重要な要素であると考えられます。

(項目4)「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。」

回答		児童生徒 教科 正答率 (%)			
		している	どちらかとい えばしている	あまりしてい ない	全くしていない
小学 6 年生	国語 A	70.1	67.7	66.4	64.2
	国語 B	50.2	52.9	49.3	47.5
	算数 A	57.4	58.4	54.7	63.6
	算数 B	46.7	47.3	42.0	53.0
	理科	59.8	59.6	55.2	56.3
中学 3 年生	国語 A	81.2	81.3	75.3	73.0
	国語 B	70.4	67.8	56.5	48.5
	数学 A	80.9	71.9	66.4	65.3
	数学 B	65.6	51.6	43.5	47.4
	理科	75.5	70.3	64.7	65.0

○小学生では、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と答えた児童ほど正答率が高いという相関関係が見られるのは国語 A だけですが、中学生になると国語 A、国語 B、数学 A の3教科で相関関係が見られ、他の2教科においても相関関係に近い傾向が見られることから、宿題や家庭学習及び予習・復習をする学習習慣を付けておくことは学力向上の重要な要素であると考えられます。



(項目5) 「家での予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか。」

回答		使っている	どちらかといえば使っている	あまり使っていない	全く使っていない
児童生徒 教科 正答率 (%)					
	小学6年生				
	国語 A	69.7	69.2	62.0	62.9
	国語 B	52.8	50.9	46.7	47.7
	算数 A	59.4	58.3	52.5	52.6
	算数 B	49.0	45.4	39.6	46.4
	理科	61.1	58.6	51.6	55.1
中学3年生					
	国語 A	83.5	77.5	78.1	77.6
	国語 B	71.5	60.5	61.1	64.8
	数学 A	77.9	70.2	66.8	71.8
	数学 B	59.4	50.1	48.2	47.6
	理科	76.4	67.8	64.3	64.2

○小中学生を通じて、「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習しているほど正答率が高い」という明確な相関関係が見られませんが、中学生の数学 B と理科において相関関係が見られ、教科書を使っている場合と全く使わない場合では3～12ポイントの差が出ていることから、中学校に限らず、小学校のうちから学習において教科書を活用する習慣を付けておくことが学力向上の重要な要素であると考えられます。

(項目6) 「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。」  
(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)

回答		している	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない
児童生徒 教科 正答率 (%)					
	小学6年生				
	国語 A	71.3	67.7	52.8	63.6
	国語 B	52.0	55.1	46.5	34.1
	算数 A	60.6	58.2	45.6	48.1
	算数 B	50.6	46.2	30.6	35.0
	理科	62.2	54.7	52.4	50.5
中学3年生					
	国語 A	81.7	78.8	74.4	68.2
	国語 B	66.7	62.2	61.1	50.0
	数学 A	76.0	67.9	67.2	67.1
	数学 B	57.6	48.5	45.1	33.3
	理科	72.6	67.5	61.1	69.8

○小学生では、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る」と答えた児童ほど正答率が高いという相関関係が理科に見られ、相関関係に近い傾向が国語 B、算数 A 及び B の3教科に見られます。中学生では、理科以外の4教科で相関関係が見られ、理科においても相関関係に近い傾向が見られることから、ニュースなどの内容を家庭で取捨選択するなどの工夫をして、テレビやインターネットを活用することが学力向上に向けての極めて重要な要素になることが考えられます。

(項目7) 「算数や数学の授業で、問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていますか。」

回 答		当てはまる	どちらかとい えば当てはまる	どちらかとい えば当てはま らない	当てはまらない
小学 6 年 生	国 語 A	69.7	70.0	51.3	58.3
	国 語 B	52.7	52.7	30.8	52.5
	算 数 A	59.5	56.8	43.4	62.9
	算 数 B	46.9	49.8	28.5	48.0
	理 科	60.1	59.3	44.7	55.0
中学 3 年 生	国 語 A	82.0	80.2	76.7	77.3
	国 語 B	67.7	63.2	56.3	65.7
	数 学 A	76.0	69.1	68.2	74.4
	数 学 B	58.0	52.4	42.9	52.4
	理 科	73.2	68.4	64.9	70.2

○小中学生を通じて、「算数や数学の授業で、問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている」児童生徒ほど正答率が高いという明確な相関関係が見られませんが、中学生の数学 B において当てはまると答えた生徒と当てはまらなと答えた生徒では6ポイントほど、他の教科においてもノートに書く習慣のある場合とそうでない場合では2～5ポイントの差が出ていることから、小学校のうちから学習においてノートに書く習慣を付けておくことが学力向上の重要な要素であると考えられます。

□児童質問紙で問われた60項目余りのうち、本市の小中学生の日常の過ごし方についての傾向を過ごし方の割合の多い順に全国平均と比較して示しています。

(平日の放課後の過ごし方の様子)：どんなことをして過ごすことが多いか。(複数回答)

(小学6年生)

項目	テレビ視聴・ ゲーム・イン ターネット	友達と遊んで 過ごしている	家で家族と 過ごしてい る	勉強や読書を して過ごして いる	少年団など のスポーツ をしている
本市 (%)	90.0	73.5	70.0	63.5	50.0
全国 (%)	81.0	74.5	67.1	64.1	47.2

○本市の児童は、平日の放課後の過ごし方として「テレビ視聴・ゲーム・インターネットをする」児童の割合が全国平均に比べて9ポイントほど高く、その他のことについては全国平均と同等の割合での過ごし方をしてしています。  
このことから、テレビ視聴等の機会が多いので視聴時間やゲーム時間等のルールと正しい使い方について家庭で話し合うことが大切であると考えられます。

(中学3年生)

項目	学校の部活動 に参加してい る	テレビ視聴・ ゲーム・イン ターネット	家で家族と 過ごしてい る	勉強や読書を して過ごして いる	友達と遊ん で過ごして いる
本市 (%)	92.3	89.9	59.8	47.9	43.2
全国 (%)	82.2	77.3	50.2	42.2	36.9

○本市の生徒は、平日の過ごし方として「学校の部活動に参加している」生徒の割合が全国平均に比べて10ポイントほど高く、「テレビ視聴・ゲーム・インターネット」をする割合も全国平均に比べて12ポイントほど高くなっています。その他のことについては全国平均と同等の割合での過ごし方をしてしています。  
このことから、学校の部活動がないときの過ごし方と、小学生と同様にテレビ視聴等の機会が多いので視聴時間やゲーム時間等のルールと正しい使い方について家庭で話し合うことが大切であると考えられます。

(週末の過ごし方の様子)：どんなことをして過ごすことが多いか。(複数回答)

(小学6年生)

項目 割合	テレビ視聴・ ゲーム・イン ターネット	家で家族と過 ごしている	友達と遊ん で過ごして いる	勉強や読書を して過ごして いる	少年団など のスポーツ をしている
本市(%)	91.2	81.2	74.1	68.2	41.8
全国(%)	82.4	80.7	63.6	58.1	43.4

○本市の児童は、週末(土日)の過ごし方として「テレビ視聴・ゲーム・インターネットをする」「友達と遊んで過ごしている」「勉強や読書をして過ごしている」児童の割合が全国平均に比べ9～10ポイントほど高く、その他のことについては全国平均と同等の割合での過ごし方をしています  
このことから、平日と同様テレビ視聴等の機会が多いので、視聴時間やゲーム時間等のルールと正しい使い方について家庭で話し合うことが大切であると考えられます。

(中学3年生)

項目 割合	テレビ視聴・ ゲーム・イン ターネット	学校の部活動 に参加してい る	家で家族と 過ごしてい る	友達と遊んで 過ごしてい る	勉強や読書 をして過ご している
本市(%)	94.1	84.1	70.4	68.6	45.0
全国(%)	80.1	69.4	61.3	56.0	41.0

○本市の生徒は、休日(土日)の過ごし方として「テレビ視聴・ゲーム・インターネットをしている」「学校の部活動に参加している」生徒の割合が全国平均に比べて14～15ポイントほど高く、「友達と遊んで過ごしている」割合も全国平均に比べて、12ポイントほど高くなっています。また、「家で家族と過ごしている」割合が全国平均に比べて9ポイント、「勉強や読書をして過ごしている」割合も全国平均に比べて4ポイントほど高くなっています。  
このことから、平日同様に学校の部活動がないときの過ごし方と、テレビ視聴等の機会が多いので視聴時間やゲーム時間等のルールと正しい使い方について家庭で話し合うことが大切であると考えられます。

□児童質問紙で問われた60項目余りのうち、本市の小中学生の平日の家での勉強時間についての傾向を全国平均と比較して示しています。

(小学6年生)

時間 割合	3時間以上	2時間以上 で3時間 より少 ない	1時間以上 で2時間 より少 ない	30分以上 で1時間よ り少ない	30分よ り少ない	全くしな い
本市(%)	2.9	8.2	38.8	33.5	15.3	1.2
全国(%)	12.5	16.8	36.9	23.8	7.4	2.5

○本市の児童は、30分から2時間、家で勉強している児童の割合が72.3%で全国平均に比べて14ポイントほど、2時間以上勉強している児童の割合が11.1%で全国平均に比べて18ポイントほど低い傾向です。このことから、家での勉強時間は全国に比べて少ない傾向が見られるので、家での勉強時間の確保と勉強内容の質を高めることが課題であると考えられます。

(中学3年生)

時間 割合	3時間以上	2時間以上 で3時間 より少 ない	1時間以上 で2時間 より少 ない	30分以上 で1時間よ り少ない	30分よ り少ない	全くしな い
本市(%)	2.4	15.4	49.1	20.7	9.5	3.0
全国(%)	10.5	25.9	34.2	16.6	7.9	4.9

○本市の生徒は、30分から2時間、家で勉強している児童の割合が69.8%で全国平均に比べて19ポイントほど高く、2時間以上勉強している児童の割合が17.8

%で全国平均に比べて19ポイントほど低い傾向です。このことから、小学生と同様に家での勉強時間は全国に比べて少ない傾向が見られるので、家での勉強時間の確保と勉強内容の質を高めることが課題であると考えられます。

□生活習慣・学習習慣調査の他に「いじめ」に対して本市児童生徒がどのように考えているのかについての調査結果も全国平均と比べて示しました。質問内容は小中とも「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」です。

(小学6年生)

回答 割合	当てはまる	どちらかといえ ば当てはまる	どちらかといえ ば当てはまらない	当てはまらない
本市(%)	90.6	7.6	1.2	0.6
全国(%)	85.9	10.9	1.9	1.1

(中学3年生)

回答 割合	当てはまる	どちらかといえ ば当てはまる	どちらかといえ ば当てはまらない	当てはまらない
本市(%)	92.3	5.9	1.2	0.6
全国(%)	80.7	14.8	3.0	1.5

○小中学生とも、「いじめはどんな理由があってもいけないことである。」と考えている児童生徒が98%を超えており、全国平均に比べてかなり高いといえます。このことから、各学校で取り組んでいる児童会及び生徒会活動を中心とした本市の「いじめゼロ運動」が成果を上げていることがわかります。

## 課題と改善のポイント

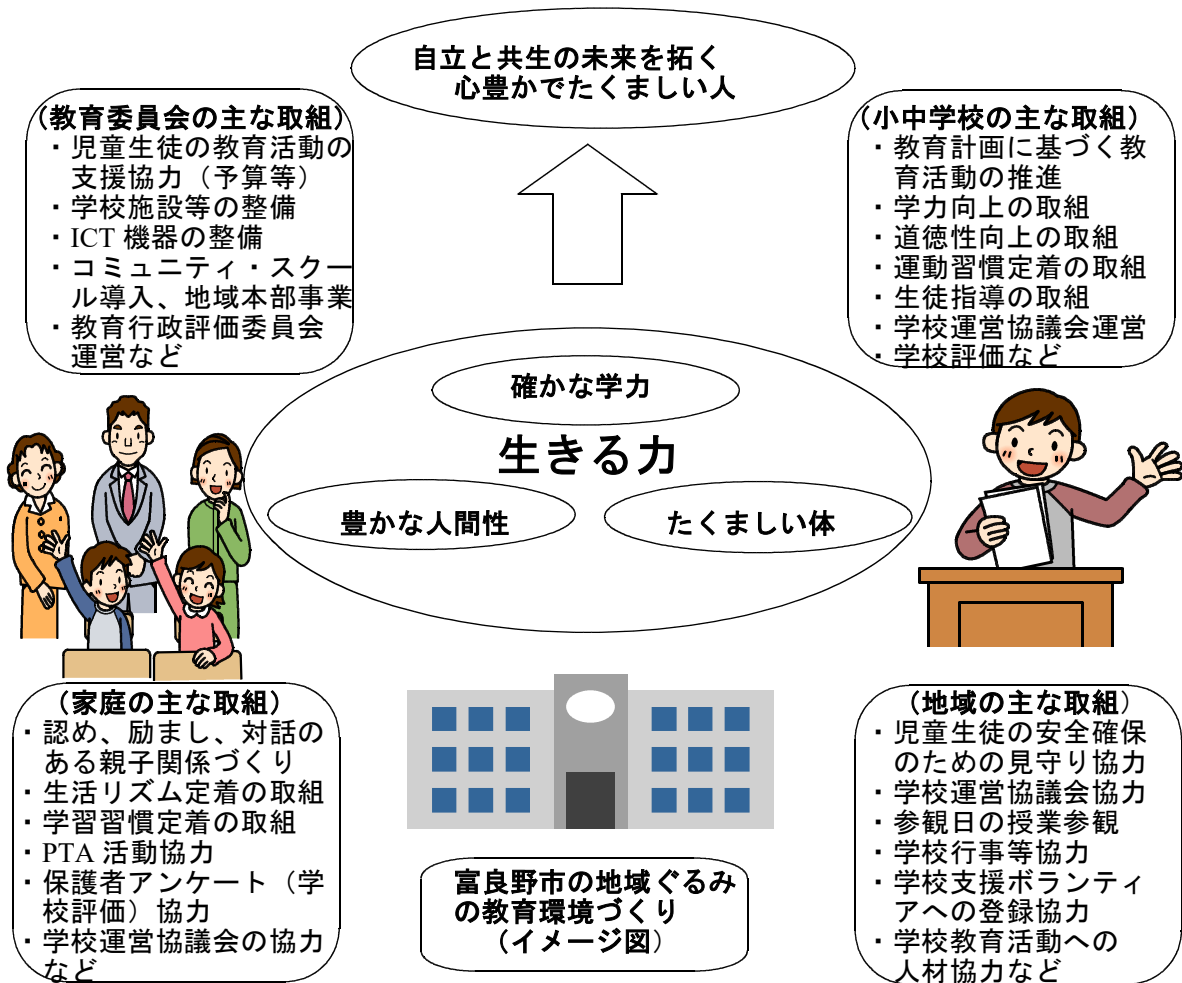
### 保護者・地域の皆様へ

現在の子どもたちが大人になって活躍する 21 世紀は、人工知能の進展に伴う急速な変化が想定される情報化社会、少子高齢化が更に進む社会と予想されています。

だからこそ、小中学校のうちに「生きる力」の基盤づくりをしておくことが重要となります。そのためには、学校・家庭・地域が「学びの環境」を整え、子ども一人一人の可能性を最大限に伸ばす「地域ぐるみの教育」を実現させることが課題であると考えます。

児童生徒の学力の向上を含めた教育活動は、学校が責任をもって推進しており、特に学力向上に向けては、富良野市内小中学校において校内授業の研究体制を整え、授業公開や研究授業・日常授業の改善などに全力を挙げて課題の克服に取り組んでいます。それに加え、「地域ぐるみの学びの教育環境」を実現させるためには、児童生徒の「学びの環境」の土台となる「しつけや家庭での学習習慣及び規則正しい生活習慣の定着」に向けた学校・家庭・地域の連携した取組の充実が極めて重要となると考えます。

富良野市が目指している「地域ぐるみの教育環境づくりの実現」に向けて、大人はもう一度足もとを見直し、大人としての責任を自覚し、改めることは改め、当たり前前は当たり前のこととしてできるよう心がけ、21 世紀の日本や北海道、そして富良野市を支え、活躍できる子どもたちを育成するために「学びの環境」を整えていきましょう。



## ～ほめて伸ばそう 子どもの学力～

行政、学校、家庭、地域社会が連携し、  
確かな学力向上に努めます。

### ◆ 教育委員会

- 学校、家庭、地域が一体となって取り組める体制づくりを推進します。
- 外部講師等の協力による継続的な授業の支援を推進します。



### ◆ 学校

- 学習状況の現状把握により明確な目標を設定し、学校全体で学力向上に取り組む体制づくりに努めます。
- 学習への関心・意欲の向上を図り、学習の悩みゼロに努めます。
- 基礎・基本（学習した内容・教科書の内容）の確実な定着を図るため、指導体制と指導方法の工夫改善を図ります。
- 児童生徒が発表する場面や体験活動等を充実し、「生きる力」を育てます。
- 家庭や関係機関と連携し、個に応じた特別支援教育の充実を図ります。
- 学校間・校種間の連携と円滑な接続に努めます。
- 予習・復習の仕方や必要性を自覚させ、家庭学習の定着化を図ります。

### ◆ 家庭

- 『家族の約束7か条』を推進しましょう。
- 日常生活での積極的なコミュニケーションに努めましょう。
- 規則正しい生活習慣と宿題の取組のみならず、計画的な家庭学習（予習・復習）に取り組みましょう。



※小学校6年生で毎日70分以上、中学校3年生で毎日100分以上取り組みましょう。

- 「早寝・早起き・朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」を実践しましょう。
- 「ほめて、伸ばす」家庭教育に取り組みましょう。

### ◆ 地域

- 積極的に子どもたちとふれあいましょう。
- 学校の応援団として、学校支援ボランティアへ登録しましょう。
- 地域の学校の参観日へ積極的に参加しましょう。

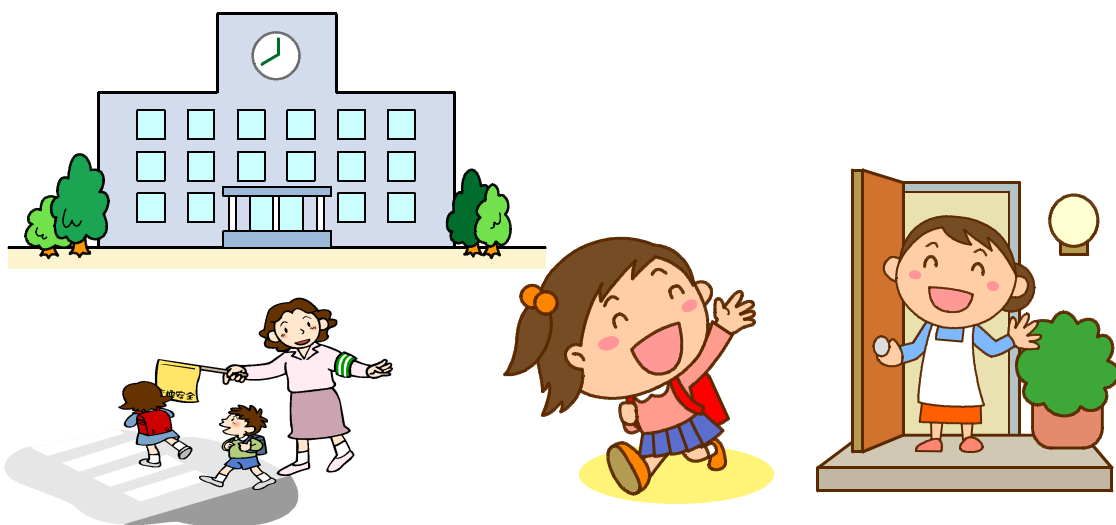
## 富良野市学力向上推進プロジェクト

（富良野市PTA連合会・富良野市校長会・富良野市教育委員会）

# 家族の約束7か条

「すべては子どもたちのために」を合言葉に

- 1 学習や規則正しい生活習慣の定着に向けて「早寝・早起き・朝ごはん・みんなそろって晩ごはん」運動に取り組みましょう。
- 2 NO テレビ・NO ゲーム・NO インターネットの日を決めて、家族で対話や読書等に充て、家族の「絆」を深めましょう。
- 3 学校行事やPTA 活動に積極的に参加しましょう。
- 4 子どもの危険信号（SOS）に早く気づき、心配事は39-2333（教育相談直通電話）へ電話しましょう。
- 5 スマホ・携帯電話・インターネットなどのネット被害から子どもたちを守るため、「家族のルール」を決めて、家族の「絆」を深めましょう。
- 6 参観日（授業参観・学年及び学級懇談等）や家庭教育（子育て）セミナー、講演会に積極的に参加しましょう。
- 7 子育て家庭教育ハンドブックを活用し、家族の「絆」を一層深めましょう。



富良野市 PTA 連合会・富良野市教育委員会

## 学力向上に向けた取組

### 1 全国学力・学習状況調査結果の公表（富良野市教育委員会）

- ◎ 各学校ごとに保護者・地域へ公表
- ◎ 「富良野市学力向上推進プロジェクト」による結果検討及び概要の作成
- ◎ 上記プロジェクト検討結果の概要をホームページ及び広報「ふらの」で市民に公表

### 2 全国学力・学習状況調査結果・標準学力検査結果等の活用（各小中学校）

- ◎ 学力向上委員会等を通じた組織的な調査及び諸テスト結果の分析と改善策の実施
- ◎ NRT 標準学力検査結果（全小学校の2～5年生で実施）、知能検査結果（全小学校2つの学年で実施）及びQ-U検査結果（全小中学校で実施）を関連付けた活用
- ◎ 全国学力・学習調査の過去問題、チャレンジテスト、市販テスト、自作テストの活用

### 3 各学校における学校力向上の取組

- ◎ 富良野市第3次学校教育中間計画（平成30～32年度）に基づく学校・教育委員会が一体となった児童生徒の確かな学力向上に向けた取組
- ◎ 学校評価結果（教職員評価・保護者アンケート・児童生徒アンケート等）の学校・家庭・コミュニティ・スクール（学校運営協議会）での共通理解に基づいた学力向上に向けた取組
- ◎ 学校評価結果に基づく全教育活動を見通した学校改善プラン及び学力向上プランの組織的な分析と見直し
- ◎ 学校改善プラン及び学力向上プランの分析・見直しに基づく改善策の実施
- ◎ 新学習指導要領に基づく教育課程への移行及び外国語活動の先行実施
- ◎ 日常授業スタイル、学習規律、教室環境整備等の共通指導の充実による「チーム学校」としての教育活動の推進
- ◎ 地域住民を対象とした地域公開参観日の開催等による学校教育への共通理解の強化、家庭・学校運営協議会・地域の連携による学力向上の取組
- ◎ ふるさとキャリア教育等を重点とした保幼小中高一貫教育の推進

### 4 各学校における教師力向上の取組

- ◎ 主体的・対話的で深い学びを位置付けた教育課程（教育計画）に基づいた、日常授業の改善をねらいとした校内研究体制の推進
- ◎ 教職員のライフステージ（年齢・経験年数等）に応じた英語指導力を含めた「専門的な研修会」「教師力向上研修会」「学力向上サポートセミナー」等への積極的な参加と日常授業への反映
- ◎ 客観的な学力資料（NRT 標準学力検査結果、知能検査結果及びQ-U検査結果、全国学力・学習調査の過去問題、チャレンジテスト、市販テスト、自作テスト結果等）に基づいた組織的な改善の実施



- ◎ 各教科等との関連を図った教育課程に基づく、教科内容指導にふさわしい人材・環境の活用による体験活動及び言語活動と教科活動の充実
- ◎ 授業の課題やまとめを意識した「わかる授業」授業の実践、授業過程（授業の進め方）を関連付けた板書とノート指導の充実改善

## 5 各学校における学力向上に向けたその他の取組

- ◎ 「学習内容のつまずき解消」「きめ細かな指導」で基礎学力（学習内容）の確実な定着をめざす TT 授業（複数教諭による指導）、少人数指導、習熟度別指導等の指導形態の工夫
- ◎ ICT 機器（実物投影機・電子黒板・タブレット端末・デジタル教科書等）の効果的な活用に向けた環境整備及びプログラム教育実施に向けた整備点検の実施
- ◎ 「学習内容のつまずき解消」「学習内容の確実な定着」に向けた反復学習、苦手な内容の補充学習を中心とした放課後学習及び長期休業中の学習サポートの実施、外部人材や学生ボランティアの活用による補充学習機会の提供
- ◎ 小1プロブレム解消に向けた生活科等におけるスタートプログラムの位置付けと中1ギャップを未然防止に向けた中学校教諭による計画的な出前授業等の小中連携や交流の取組
- ◎ PTA、学校運営協議会、関係機関と連携した「早寝・早起き・朝ごはん・みんなそろって晩ごはん」運動推進、「家庭学習の手引」や「生活リズムチェックシート」を活用した望ましい学習習慣と生活習慣定着の促進、家庭における読書時間の確保の促進
- ◎ コミュニティ・スクール制度導入による地域との連携を基盤とした地域ぐるみの学校運営をめざす体制の整備と学校支援ボランティア等の外部人材を活用した授業の位置付けや教育活動の工夫改善
- ◎ 学校独自の朝読書や読み聞かせ、学校図書館の各教科での活用、図書司書の活用、読書週間の設定等による読書習慣定着の取組の継続と市立図書館と学校図書館の連携による読書環境の整備
- ◎ PTA 連合会と連携した「ノーテレビデー・ノーゲームデー」の促進、家庭における学習習慣及び規則正しい生活習慣定着に向けた協力、スマホ・携帯電話・インターネット使用の家庭におけるルールづくりの推進
- ◎ 「英語を話せて活用できるふらのっ子」をめざす、ALT（外国語指導助手）による外国語活動、英会話教室の実施、富良野市独自のイングリッシュキャンプ開催、中学校英語教諭の小学校への乗り入れ授業等による小中英語連携事業の推進
- ◎ 学級への適応等で困り感のある児童生徒一人一人への学習指導を充実させるための、富良野市独自の学習支援員の配置及び指導体制の整備、ことばの通級指導教室（扇山小）の設置による言語や学習のきめ細かな指導の実施及び特別支援教育連携協議会の計画的な開催と教育相談の実施